滑稽和合人

編

上

へ13
3128
1

東京大学

へ13
3128
1-15

滑稽文笑尽

東京大学

龍亭主人が著述の滑稽尽

見る流行者形勢を思ふこゝ

抑滑稽著述の正統へ天竺浪人大和町の翁株式会

田みやげ。侠求浄土の戯作者とあるより延寿丹の

主人多世義者人情を快癖を集録し援佑て浮世の

あるを脇の下みやり。お茶をこぼして赤の手水腹を抱て

絶倒を止て笑をとゝめざるべらく病の愈たる伯母膝栗毛の

永の道中も帰路をうるおしてセ年ゝ孫とゝ

足を洗て。ゆゝしくこゝ此あぶとゝ公止めゝ刊。ゆゝしく田ふ

特
へ13
3128
1

世の中ハ竹田近江ゆかりあるゝれど星霜の隔てゝ花ハ
細工も流行の移るゝ時の花代が替れば加ゝる程萬物
造化の奇を出と変化ハ吊体の言はゝ為め美ハ笑ふ
止ハ莫逆交の情状を尽せし。ハ笑多け冊子ハ毒ハ鳴
響ハ曙神門のゝ寄れる大多のゝ鳴呼吉人
蓼太が句ハ

碎てゝ三千丈や滝の月　ハ公あやけの扇のゆき

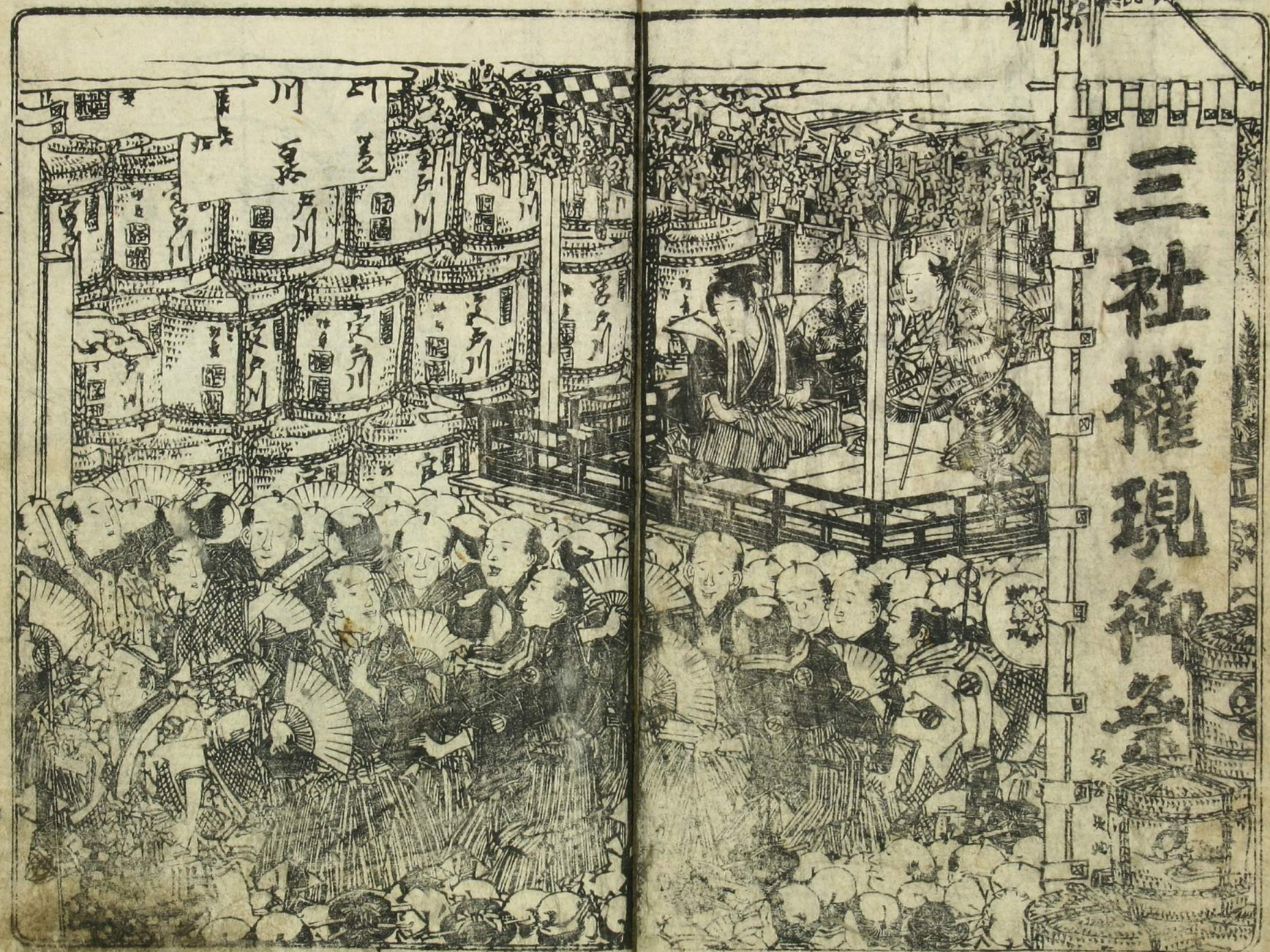
ゆゝ流やゝ打ゝ水や竿鯉丈の長ハ舟合ゝ乗ゝ人
ゝゝゝゝゝゝゝゝ鯉丈を流行花の文上花ゝ三ハ朝顔ゝ所

形ハ盆ゝ入ゝ出ハ新地の稲荷ゝ詣ゝ小田原の
加持水ハ形ゝ集ゝ持ゝ田家ハ持ゝ土産
持ハ入ゝ家ゝ芝ハ宮ハ中通ハ妙見ゝ安
置ゝ。ゝ神ハ仏ハ新切通ハ見通のギヤマン
の燈籠ハ細工の行燈ハ及べ。
長崎下りの唐人も怪ハ看ハ踊と思ハ
田左衛門ハ看板ハ入婿儀ハ
判をうゝ。小供相撲をゝ
稱ゝ。ゝ入ハ音妻上ゝ

願人坊主の稲荷に似て眼おくぼにして歩くともの公方の
ごとと言べきか。やはりこの方遠ふ。古木を洗うくまれぐま
赤昼生取すしう態れうどや。夫人を抱公脇ふ寄田
つとげの油おくうう公兼ゆて縫が如く古公以く新しく。
見る人時の流行ゆえにても仕立の小袖と着稜を見せる。
何ぶし丁の仕立に似て世の見せ毛代の書肆がこと奇こ妙
案の草稿八頭八滑稽ふして脱ふ勧善ゆり。尾八後編ふ
ゆづって讀者腹節をとゝバうく。ゆづて持ってあめる
教道あり八紙上頭大ふぐけ古井武米ロ四六八勇

無筆を知りてが小言ふあうどやも。燈台裏智りの小借任言
見さがるのこゝふ八ゆべうこど実ふ作者の工風を思べ井口の意
あくやくべきゆ爰とくこ分てあてんちんしもべんぐも物
類稱呼で咄で聞諸國ひ方言国吹と取ぐあく東ふ屋ゆう
うぐつふしぐろ妙案ふ異を風して後ゆぐと戎抱ゆうと
半時斗り人真似をとゆる智恵八ふ
ぱくくく獨とも火をとてら市川流ひ茶文句も異八仏三
夜ゆ半サト甚賑八ゆ高買も一ト晩夜ゆの休を華人寸刻
だりふ筆を揉て出さくゆ

溪齋誌


三社權現御祭

諸先生著編　文溪堂開版目録

源氏一統志　この書はいとふるくより板ありて漢文にて盛衰記まれなる実録をあつめ海内の編述とらんべき一書なり

将門一代記　絵入　全五冊　瀬川如皐著　溪齋英泉画

寒紅丑の日待　初編　全二冊　振鷺亭主人作　哥川國直画

丑の日待後編　三冊　近刻　南仙笑楚満人著　溪齋英泉画

春宵奇聞　百物語　三編　式亭三馬先生ものがたりて後生の為　美濃とのあつめ草紙の合巻なり

滑稽和合人初編上巻

東都　瀧亭鯉丈編

大盃を武蔵野と号し、も拙見。尽されぬといふ。謎ゆゑ廣くと。ふさ涼うし。推古れ君のまいる世よ。浅草寺といふまぐれ拙ふハ卧とも宿かるる。彼の一ツ家の甚ハ未もいぶせき八重むぐら。分ていふ隅田川。釀を渚白ともふ。続て彩を並木町今ハ並木も門松よ。昔をえ世の

賑ひハ大義大悲ふ　御代の蔭居ながら拜む観音と駒形が豊春賀出雲掾一ト巻ものして極楽見ていい猶。面白そのまま土地ぶりと小説を寮を借寓居夜を日よりそる有仏天快遊亭と鉄丁ど。打付ケ出の表札よ。ものの知ってくる主の和次郎。ハ弥生の中旬ものこ三社ぶり礼の夜宮中。氏子町こ子供中。俄踊りど今其処をと通り雛子の事を受。彼の取メりのき庖口を。引おせこ侍欠出。ハへ

入りる能楽中間　矢場七　張吉　張　主人どのどね
張　今日ハ祭ごとなるものゝ大ぶんぶのよのこと
ト申ス　へ　ヨヤアどのどの是程の世界の家よへ
上り
独り居ねへ　ハア雪隠ウデモ　ねへそこのれとも
念の為改よト　張　雪隠へ行き。　張　何ぞ
たべこ入も　張　ハ　張　ハ　張　イヤ　張　ぶん
千住と品川へ　張　ぶん
ねへ。ぶんが取られる物がねへとうこ。ぶんま

足ばつ〳〵仕打ごノウ〳〵そうよ。世間ゴ盗人の後祭
胸ッ糞がるい〳〵　張　何ぞ。そうゴそる訳ね。マア
どけ人いろ〳〵　張　今ぶんどろう。マヅ一ッぷくやろう
ト　張　烟草を呑　張　成程造作ハ。ちつまきに
拵へこが。ぶんも　張　家ごノウ。ドレちとげび様でも。
ちつト　張　煎不入を　張　ヤレくむごぶん。菜漬の香物と。
常磐味噌ガ二タ　張　吉ハ袋　張　イヤ　張　船橋屋
チト宗雅ハ遠ノガト　張　ヤレ。ぶんとこのごろ平ら

熟まくいア。もて此口をといのやつい喜をとつく
やつぐよ。喜及ら式及取って重く。喜撰の半行こ
あろくゆの。お客が数度も勤るせへちぐへねへ
むやくと。深付の唐子の彰れる迫。やる奴い移へ
ノウ。そて座敷数が重って。積付ケの形のまりい
時ろわい。又五分引り下の方へ入れ足らくまるると。
年中たへ間ろーよ垂ろるくゆ妙ぐへンとんざ
鰻屋の醤油ぐへあくゆ方せやめぐろうとの。

へだろくぐいまづい。醤油樽とやつくこと。やくくうせべ
いつ。ぐやもまぐ哂落のもが三かたくねぐへ哂落の
毛が三かえくく。人間よあるぐろうへアくりうる
さく。あやれたがるゾ。うつとやーいへやアく強気か
ゆをえ者ぐへあんぐへ巻封のや。宮戸
川ぐ一ト陶。あんと帰命頂礼ぐろうへぐーて物命
てくらいのが。今をみるるりの。今日初末のぐろう
へなんぐ又哂落。さうぐりくねへへンか

その地口をいふと。どうもうまくねへ。
旧知へいつく恥をうねへ拝ぶ友達のよしみよ。
訓読しくゆせのへ。まづ御命頂礼とのこと昨日
動乗と笑ふことでそこで。昨日貰ッたのが今を
ふる家でねへう。今日動乗ごろうと。晒落さ
のごいこうまるごろう。是でまうねへそれば。
聾ご〳〵もの聾ごろのが。そうもの耳ッきへ
〳〵ナセまうく御命頂礼とのこと

昨日動乗と笑遠へるうよ〳〵そんなすいどよ
いとして。まづ開封して一ッ献きこしめそのおもア
ねへう〳〵〳〵。ソレ羹よ烱ぢうがあり。
幸烱銅子もまくいる。岩ゆト陶ようあけア
いうごナ。どうでも隅田川いつせ〳〵べらがめへ
浅艸で名酒さへうると。隅田川ごとうみもんサ。
是ハ宮戸川と中洲酒ごハ〳〵何。宮戸川。
ろんまナア。浅草駒形町。内田甚ちと。ある程

こりゃア初くあもうづきさよある〳〵なんぞあの
内田を新〳〵ねへらべる廉アいな。狗形の内田城
きゝねへものがゐるものゝ。内田いきつてるゞ此酒のゝよ
〳〵やんぞり記がきうねへのゞ今時宮戸川をきゝねへ
ものがゐるものゝ。ちつとあつアきゝ家ゐハ都鳥と
つゝ揚がきゝ年ねへと。墓ゐが。きゝ〳〵ねへ格ざハ。
がゝり〳〵呑ゆり酷ぢゃアねへ。ちつときをつけるゞが
い。あんまりあんもきゝねへでなきけねへるゞ

〳〵あんもきゝねへるものゝ。隅田川なんぞ。
度〳〵呑てきゝて〳〵ア〳〵ハ、こきゝいうべらがゞ
いりゃア親音様より引続て出来こ名酒ざものゝ
あれを新〳〵ねへらゝ。カラ茶瓶のゞく移ん
きんぞア〳〵アりよくいゞこ合ゐ合ゞ。サく鉢が
出来こ。きゝうそゝ。まづ亭主殺よ此茶碗でハし
ゆゝゝトそれより間も押へも有もく。ハバ
これゝくとゐ玄盃ゝ。そり文瓶ゝのお替
りゞ〳〵ヲットきゝう。きれ
今度ハ陶のお替りゞ

成程一升ハ養のごとしぐ。あんまりあつけあるつく。
サア沢ハ茶ろんなぐ合ぐぐせ〳〵ちゝしいく仙持よ
あんつく。あゝアあう沢山ぐ。アゝいく酒ぐ乾ハ流れ
苦ぐ。悪辺ガあねえ。茶呑公。何を呑のぐ〳〵今ホ
宿六ガ呑るとちゝ怪体をあつく。おどろうせ
格といつユぐ〳〵なんぐ考をだいあ。ホ呑るぜ。
どあるのぐ〳〵今ホけ〳〵りくッて一ッぷくとひ逃ぐ烟草ガ。
ろせんと考へムッつのく。それねえとよ。仕掛ヶよ

〳〵こいつアおりれへおれもたゞて盃を一ッ。あぐりつけ
よよ。おあへあんであぐろく〳〵此三絃糸の年明ケガ
あッろろ。ちひつくこのよ。コレ火神の引出しに
いくもあれ。そして宮戸川の接売へも玉川を
ぶちこんで。元の通り封をあくおよ。あんぐの
種よあろうもあれねえ〳〵ムゝいく美の名ぐ。
蛇ノ目の傘ガ助六とある。宮戸川ガ。とろり
くつく水とある。アヨリく〳〵ハ〳〵書ぬく。和

さんざ名へッてゑ。笑ゞてへいけ極へ世へ。そろそろと
仕掛ケてへゑんざ。イヤあるそ。此廣嶋を。五徳へ
ろ法けゑ。マグ糸の焼ね人。拾ふ。火をのりくト。
そそゞ。そう弦付の廻ろう。五徳の天窓へ形よ
ちぞり付ケて。ヤア。ろく。ちつともうごゑ。蒙を
つぐうと。ちつく。ト。やつく。えそも。よく。ぎ。ろう
ちうぐろう〳〵炭取もやく。ゑ。おれへつ〳〵
ト。それより。猫えもの。ちぞ。ちぞ。ちぞ

ゝるぐろう〳〵ヲヤ〳〵きく。履物ぬぎの向へ移りつゝ
ゝんせよりくそこの火鉢の引出ハ一本ねへろ。
又ゝんゝんヲイ〳〵でいろまぐさあるぜ〳〵。
ゝみまゝんゝんヲイ。それ取ぐるぞ。ゐるぞ。
のぐ〳〵雪隱の雪履を。縁ぐんゝ。ゐつ行ケ。
フレ。ちのゝと突掛て前へ出るとつんのあるとゝ
仕掛よ〳〵ヲヤ〳〵と梓ハ鴨居へ上りくゝ。ゐみへ
火ぢゝへまゝくゝれがい。ゞゞ。鰻と猿の敵討

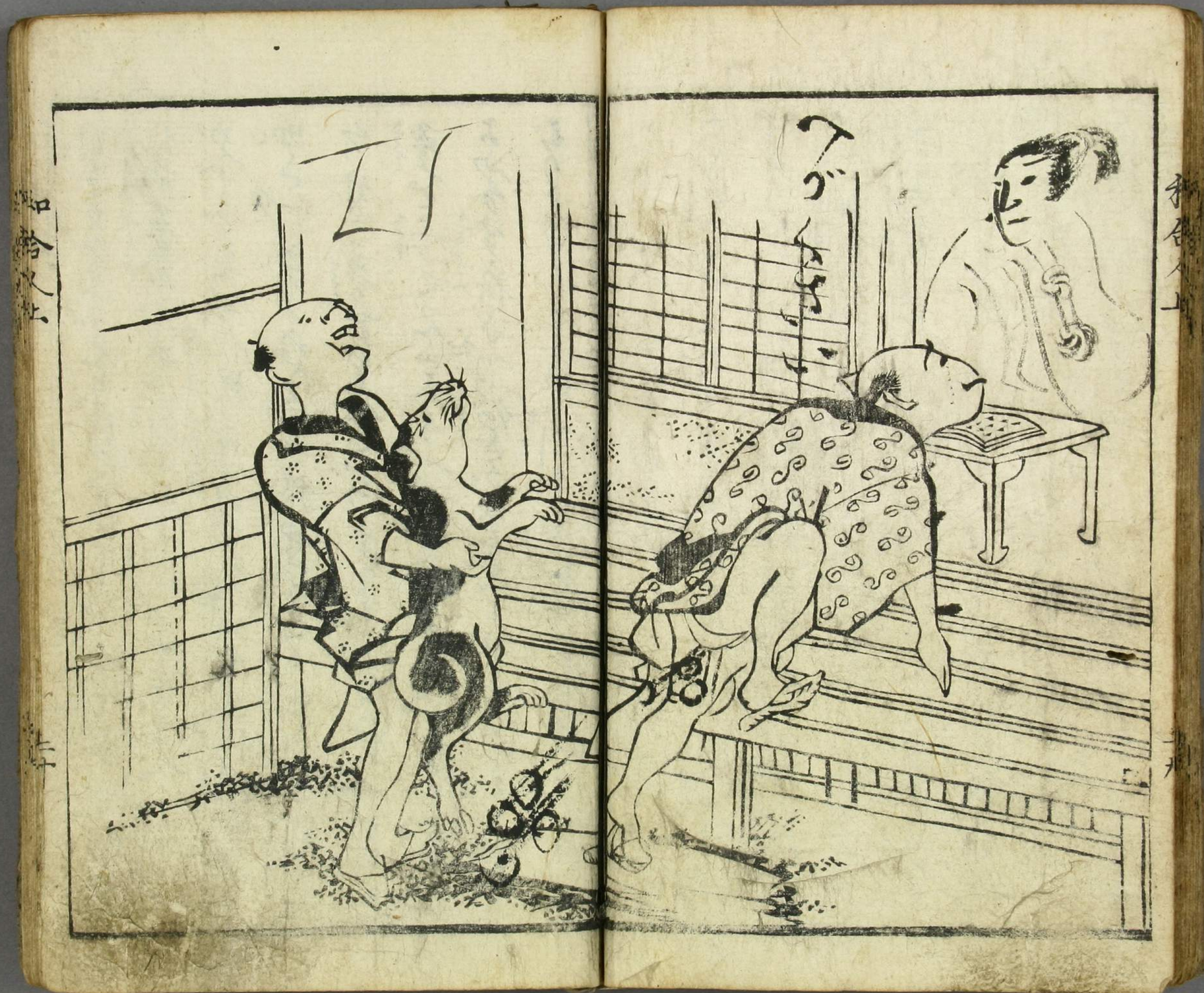
きゝゝゝ。ハゝゝまゝゝ。ぐ〳〵サアゝくゝんゝ。かゝれ
ねへゝ。おゝゝ。此夜具戸棚へ這入べヱ〳〵その下へ
おれゞきゝろゝ〳〵おれい兼ゝんゝの股へぐもきろゝ
ぐゝゝて爰へいきゝれねへ〳〵。灯ゝ。
〳〵あんまりきゝ屋でおきれるナア〳〵ゝんゝゝこの
隣へきゝゝゝ〳〵ドレ。ヤアゝ爰ハ仏檀ぞ〳〵仏檀
でもかまゝゝまいねへ。何もゝ道具ぞねへゝ。きゝゝ
れるぐろう〳〵ムゝゝゝ。ハイ仏様ぢあんゝ。

イヤどうしたいナ。それ足音がするぞ。矢場の方へ
来ねへろ。ヲット承知。エヽリ。サテ大原をもうし。
おゐねへ。ぜひ。下の戸開けて。コリヤア
ぜひもない。コレ小便をしれいをねへ。エヽリ。天窓ヲ
ヲヽつめてへ。ハヽヽ。花生をぶもうく。さのぞ。おれも
つめてへ。ありやア変の住居い。居いねへ。
れてへ。おれも変な居らもねへ。せへ。いつとの
うもぞ。しんぞうきつしナ。チョツ。ちつとぶねへ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]


ぐらぐら

目もまるくなり。ぞくとぞけて飛さがり。足元のあんのと。
化物屋敷ぞや。あるやへ〳〵イヤあるやへ〳〵。
やへ〳〵どころか化物屋敷ぞ〳〵ナゼく。何ぞ
ぞへ〳〵ぞへ〳〵ぞ。マヅ形あぐ。チヨツト
ちが有く。ちをちをと引つゝ。ちをちをごうね〳〵ナゼ又
ちを上げて見ろう〳〵ヱヽ。ちをでハね。きるゲよぶき
ちをを笑ぐ〳〵なぐろ。ちどく。トツチていろう。さん
ぞりまけぐちをゝ〳〵ね〳〵トツチあくつてあるちの。

それかまぐどことも。ちよ。珍の声が幽かふ笑へる。
天井でケラく笑声がきるろ。ちをゝ〳〵ある依て眞へ
ろ行ちをゝ〳〵ちが有く大盤石のごとくごろ。今おかれも
ちをゝ〳〵ちが有く。ちどころれるく。ありちをぐろ。ちをゝ
欠ぐ〳〵さのよ。ちをゝ〳〵ちをゝ〳〵ちをゝ〳〵ちをゝ〳〵
〳〵どちてちをゝ〳〵ものろ。ちをゝ〳〵ちをゝ〳〵ちをゝ〳〵
〳〵ちをちををつくものろナ〳〵ムヽ。ちをゝ〳〵ちをゝ〳〵
ちをゝく。ちるゝ。西落でもあるち。ちをゝ〳〵ちを

たゝく居てもそこ〳〵まで行へ。あんまりろいのく
ゝよのゝそハ行へゝ。ムゝ。おゝアモウ。まつぞり
ゝそこ〳〵。ゝんぞといゝ。おめへいゝくゝ行へ〳〵おれの
独りぞハ行へ。一ツ乗ハいゝく下ッしナ〳〵ぞんつ。
おゝアモウ。まゝぐ行へ。今ハぞれぞハゝ。
ゝよちッとおめへ〳〵それぞゝとゝく。変よ立く
いゝれるのゝ。モウ実ッゝよあゝと行て燈り
でゝつけゝ〳〵表さへ此ゝひゝゝ。閉かまゝ

ぞゝう〳〵ぞゝまるのゝ。己ゞ家ゞ。敬ゝぞハいゝれ
行へ。ちゝ〳〵そのよ。それぞゝ〳〵おゝも敬ゝゝと敬よ
のよ〳〵そんかをゝくゝれるゝハ行へ。サアあゝ
だッし。あんの。まゝ味のゝりのと限りゞ行へ。
行ゞのきも鬼とゝへゝ。あんのかまゝるゝ行へ
トカ列ゝくゝ。ゝ行ゝ。揚ゝ〳〵ハゝんあゝ〳〵
ゝゝ。お人三止り〳〵サアそゝ
行へゝ。ゝのゝもゝく居る〳〵。おめへの家ゞゝ。あへ実へ
這入る〳〵それでもどゝ〳〵もゞ也ッと行ゝいゝ。物ゞ

知れねへ〳〵（初二）自然の家の猫なるぞ。それ程すぐるものゝ。こゝくかつゝゝ。おゝ（和二）おゝ（和二）いつもかゝれがゝ。こゝいぐ。今日のゝハ足下ぐ呑込で居るでハねへ。クマアどゝゝで笑声がゝゝ

場ニ（初二）ゝハ小声よりゝ。天井へ撞をさゝ〳〵（初二）あをこいゝゝでケラく。エ、ゝひぜゝ

てもそつとをるト（初二）白猫一匹欠いぐ。猫の下へ垣根のゝゝ（初二）ヲヤ

白いものゝ猫の下へトいろしろへ又日陽の猫へ斑る斑犬。

ま入ぞ系へ牛さをうゞゝれ。一向おゝゝぞ不居る加。（和二）ゝぐ

かゝとをペロリとなめれば〳〵（和二）ワアリト花のく声よりどろき（初二）ゝゝ

キヤアトいさゝ。そゝ撞をぬいそ（初二）

ぺつゝゝ尻（和二）餅をつく〳〵（和二）エ、ゝ引ゝんざナ行山らゝゝ。ゝゝゝ行さをさア〳〵（初二）ゝんの

なゝへの声でゝゝゝゝゝゝのゝ。ア、亀ノ尾の骨をゝどく

ゝゝゝ。ア、そゝく〳〵（和二）此畜生も又後ふたまつゝく。

いゝゝアゝるゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝんゝ。きのきゝゝ

〳〵（初二）ゝる鹿をいゝゝ。此上この畜生ふゝゝでゝいれて

たゝゝる物ゝ。そゝゝアいゝゝ。おゝゝゝどゝ出るきゝゝ（和二）ゝゝ

きるゝのゝ内へおゝゝゝおゝゝアゝゝ〳〵（初二）ゝんゝゝゝく

上ッてく行灯でもつけねへナ〳〵そんべエサアあも
だッし。たゞ知れさ狐ゝ狸の業ゞイツく斑コイく
チョッくく。おのゝを連ていけが大丈夫ゞサア這入ウ
トこゝく枝打を入り。履物ぎの〳〵揚出来ねへナ。なんの
畜生めゝふ。おどされてつまるものゝへ。これゞ家ゞッ
初二 もそろく〳〵斑やく。コこまりくそゞくゞ実ふそ
これ今ふあんどもるゞ和次さん上ッて明りをつけねへ
あんまゝろ。そゝくッてハ始末がもりの〳〵ムゝよるべエへ

初二 あれゞうもゞイト履物ぎの上へあゞ。すゝんゞしゞ。ゞひきのゝる
枝打を入り。履物ぎの上へ。ゞ。ゞうけるゝ力を入れて
〳〵ヤ。コウノ畜生めゝアトつきあゞ犬いぎ〳〵平ぐ出
ちゝるのゞナ〳〵ヤアぶちこのく。てあんのことでハねへコりく
チョッくく。サアあんもこねへくナ〳〵マアはりを早くつけ
あをいのふ〳〵つるゝゝ来るよ。いの射弁天山の紋ボヨン
〳〵エヽヲ。ゞ。ゞりちく〳〵あれもヨ。今ゞ大魔ゞ時とい
のゞナ〳〵エヽそんなのをいふんじやアねへ。おゝろくも
ねへトゞうく。ふをいゞゞ。ゞ。ゞ。

ぢうり　エヽイ。ちぢへねへ。畜生めら。ぞよ。ぞろ。えめアぐれ。
文上り　揚公斑をつまて上ってくんねへ　和二コイく。チヨツく。爰へ
こいく上れく。エヽ、弱い畜生ざと　和二ふハ前足をまた揚二くハ
ちぐ不能ちり。むせう不尾をふくいる。此時彼の三人ハ揚二をやひの
うせ。逃出せしまて。大ぞろひして。和二てくがぬりかバ。又ちくくくんと笑ふ。
いつく。ぞをこえりのふ。ふるぞの宮戸川の三人。井の雄ハ十ちよ。
いまの内ふ。ふりいく。ぞ。ちいく。和二てく。揚二ぞらも。
うちぢうまり。ぞ。今ハちぢも。ぞろ。和二ぞ。
ぞいびきを。和二ぞ。和二ぞよぎよりとして　揚公鼾の声がするぞ。
何の処ぐろう　和二エヽ。ぞふサノ。天井ぐく　和二ありやア大変ぞ。
鼾をかくぐく。蝮蝎ようちぢへねへ。天井よ住っていられ

ちやアたまるねへ。マアく。ぞうふぞく。起してハ大変ぞ。
コリヤアぞふても大家様へことろう。モウくおぎねへく。
おぞろしいぐぐ。それぐのいく。サアあくあぶねへ
ト　土場人　なれさ。和二さんクヨヤ
揚公何の処へいくのく。土場公ぞくへく。よくマア
来くくれさナア。ぞんぞう。ぞアーおとをいのぜ。矣湯
公や。詩ハ居ねへ。和二インニ　和二ハテナ。先程此地門へ
ぞいっくぞがぞりやアいくが。あくもハ何の処へ

いく〳〵（和二）エ大家様へ〳〵ヲヤ。妙ナ要いく。何の用ぞ。
そしてあめへ。まの。ゆんぐら。初めとまうさせ。よのぐ。
（和二）まる。ぐが。ア。大事のこまぐ。マア。大変ぞ。
ぞ。ア様。ア。おく〳〵ぐうもの。天井ヨ蝦蟇ぐ。
ち〳〵様へ。ちいるぐう。今。近。よく。ゆんとも。ア。ちく〳〵。
いのくとい。ア。今。ア。ア。ア。大家へ。ちとまうと
いのとまうしょ。ゆんぐ。ア。ア。ア。此家。この中。ぐて。
うまぐ。ゆんぐ。居るめう。ぐ。ぐ。ア。ア。ア。

のう〳〵（和二）ウエニヤ。形ハ。ア。様へ。ア。れど。天井で。鼾をかく。
ア。ア。ア。ア。遠ひ様。随ア。古家ヨハ。ア。ア。ア。
ショ。通。力を。ア。ア。植の松ア。ア。住で。居。ア。ア。
ア。ハサ〳〵（土バ）ハ。ア。ア。ア

くさびら

まんのそぶ笑へとう。天井で。ケラく笑声が笑へとう
〻〻〻〻。あんまりだらくしい。そんなの絵を
みしとう。ケラく笑ふ。頓喝がどふあるものう。
大象へいろく。それをいふまづ〻〻〻〻
まづあやまつねへ。だらくしい。そんなつまらぬもの。
表向へいされるめう。マアく内へあやまれ。あやまれよく
見届てやろふト先へもち。内へもれば。ふきを〻〻〻マヅ燈を
つけねへ。今時分まで。ぼりをつけねへ家がるものう。そんの

ねえよとくく〻〻。あるく〻〻。きの味がるのの〻〻〻大きな声あ
あるさんか。同を笑させやあ。大変ぞ。あの軒を笑ふ
〻〻ム、そふサ。成程マアくあんやう。彩灯を。ぜ〻ねえ
和てくくく〻〻〻〻ヲイ火鉢のそばへ火打箱を。もて〻
あんぐん彩ぬ中〻〻〻〻
苦ぐ。て。あく。。。。ふ〻〻〻ダテ時分ダテ
付をあを出〻。火をうつさんとそこらをさんを。ちあると取ても。どう風方がをいれて。
ケイとられば五徳ぐらこ引ぬ。ぬりあるきが土場六も少〻。やぎまあるひ
まづ〻〻をつけく〻〻をうんとそこの〻〻〻〻

土場ぐ。影をうんかへヲヤくわんよ天窓も影も真ッ
白ぐ。ありやアふぐ。あれが影をうんてそッし（和二）あわへい
あんともねへぐ。あれい（和一）足下もあんともねへぜ（ナビ）ナゼく。
あれが影がどふ〳〵このぐ。ヘツクショ。エ、いあへまい風を
ひくそあぐト影をひくこのうち。付いこのぐ。ザラく。ヘツクショ。
ちくしアア。マヅこんな物い邪ナトいつぐ〳〵ばかをとうせんと
ヲヤ如ぐナトかくんぐてかまるせふ。それバ影の義ピ。ちくと
ちくしアア。化物の正躰ぐ。あれ〳〵（和二）あんぐろう狐ろう

（上バ）狐でも狸でもねへ猫又のまぐぐ（和二）ハテ猫又とハナゼ
又あれる（上バ）〳〵。猫又ナゼ又ぞうや又これ又ぐ。ぐてあ
ちくしアア。扨又次のたぐと盆をえちの下ろ物ちくしくつまが
（上バ）イヤハヤ。あへまもあんまりうをッぺらか。興ぐの物へ
ぐ〳〵（和二）ナゼく（ナビ）ナゼも、金もいく〳〵ねへ〳〵此烟草盆やるふ
うをよくえナ。ソヨリヤ。古猫の業ぐ（和二）ドレく（トラく）
（あへ）ヲヤく三弦の音で。あぐそあるの（ホ）ハ〳〵毛で蝦蟇
正躰もあれと（ト）明てえれバ。弦吉ハ閉念もあくあぐれそくしきう

ちゐふたをそれ形をヲイわくちゐ門と書くそんぞく（ト人ぞく）
又和ゐ小声ゆく（ヲイわくちゐ門）
（ヘそんぞく）（ヘ和二）コリヤアどよ〳〵このごろうへ（ヘ土ハ）そふもるぬうろへ
（ぬうり）
行ゐるを。ムツ付ちゐこのハ。此奴ゞ業ゞ（ヘ和二）ヱヽ。ゆゑ人ましい
そうゐうぐさア（ヘ扨二）ヨウ。あ〳〵ア実ゑ。おどろひさゼ。畜生めどよ
してゐりゐう（ヘ和二）獣をかくのハ上の戸扨ゞゼ（ヘ扨二）あけてえべて
あんまりゐやゝしい（ヘマア）ちゐうふさう〳〵ト上ア夜具棚をあけて
上ホ後這ふあうく首をそれ。（ヘそれハ）
（ヘそうゐ）そうゐ蝮蝎ゞ居さハ（ヘ和二）だれぞく。
兼ゐ花ゞナ（ヘ扨二）いまゐくしいやゐ〳〵ぞ。イヤ大相〳〵ぞ。

そふゞ。ムツ〳〵（ヘ扨二）鈴の音ゞあさう〳〵。仏壇ゐ人ま
実ゐのようへ。ぞうひすく。仏ぐんをあてそれハ。矢切七ハ家脇ぶぐんく
（ヘ扨二）ぐんを抱ふ〳〵入口の物屋へ行ぞ。
仏器花生ゐ。ぞ。茶を乱せ〳〵さもゞの（ヘ扨二）ハヽア。
三人ゐあまりの。ちひゞゐあさ。（ヘ和二）
おいゐゞ。チヤアゞ。畜生めどよ〳〵そうそん
ぐゞ。土場ゐ仕抜ハあるゐへう（ヘ和二）ぐんるおいうふ。ぶ
あうくゐりゐうゐア（ヘ扨二）灸をそ抜う（ヘ和二）イヤ。そんゐ
甘口ぞゐア。承知されねへ。いくすゞ。温泉土産ふ
ゐ〳〵。ア〳〵ぞ茶ゞ。ゐる〳〵。鼻の穴へ。ゐゐれ吹

うんでやるべエ〳〵まもり袋くそのあべエ。
目へ赤い紙を張つけく手くびくとんん起
ちと。家中まッ赤よ。角ことあつくろくろくるくる
おくしいぜ〳〵ムくそれもいくら笑ゆも火そのあんでゑ傳ぎ。
外よあんでどこるくまもよあがあるとあるのくく
赤ねくと駆るぜ〳〵ぞくくもく。おくる氣色へねく死人の
指さ、ムくいぞく。押入が酒荒のあぞ光より三人ねくいるく
滑稽和合人上巻終